

平成22年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4672700095		
法人名	医療法人蒼風会		
事業所名	高齢者グループホーム りんどう		
所在地	南九州市川辺町平山6910番地		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市受理日	平成22年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/">http://www.kagoshima-kaigonet.com/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成22年8月26日	評価結果確定日	平成22年9月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体の精神科病院や関係する医療機関との密な連携の下、健康的に、生活が出来るグループホームであると思います。職員は、入職後に介護福祉士の資格を取得するなど、向上心があり、お互い、切磋琢磨しながら、利用者の心に寄り添うケアとは何かということを考え、ケアを提供するよう努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

町の中心部に、民家と隣接して建てられたホームである。少し歩くと商店街や公共施設も多く、地域との繋がりを日常的に感じながら生活することができる。母体法人は、永年精神科及び老人医療を中心に取り組んで来ており、グループホーム(認知症及び障害者対応)や地域活動支援センター、老人性認知症センター等、地域に根ざした施設を運営している。経験豊富な職員が多く在籍し、医療面での支援体制も充実しているため、入居者及びご家族にとって大いに安心して利用できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

高齢者グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを意識した理念を作成し、ホール、職員トイレに掲示し、必要に応じ、理念に沿った、ケース検討を行っている。	「その人らしく」生活できることを重視した理念をつくりあげている。朝礼でのディスカッションを通して理念の振り返りを行う他、カンファレンスにおいても、理念に沿って入居者に対するケア検討を行うなど、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板のやり取りや、買い物や散歩で出会う地域の方への挨拶や声かけを行っている。	入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、ホームとして自治会に加入している。また、地域の保育園との交流や、行事(川辺二日市等)の見学等を行っている。今後、地域の方を敬老会に招待することを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が、南九州市高齢者徘徊SOSネットワーク会議に、グループホーム代表として参加していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市の職員、家族代表の参加の下、隔月に開催し、運営報告等を通じ、委員の方から意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、参加者より待機等の現状に関する意見も出され、実際に反映されるなど、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進委員会、また必要時に随時連携し、情報交換等を行い、運営に活かしている。	2～3カ月に1回、市が地域ケア会議を主催し、行政関係担当者の他、警察や消防、医師や民生委員等が参加している。会議において様々な問題を検討するなど、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を開催し、法律や対応の知識を深めると共に、直接的な身体拘束はもとより、玄関の施錠についても可能な範囲で行わないように努めている。	身体拘束に関する研修を年1回程度実施しており、職員は指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して日常のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、資料を配付し、学習会を行い、知識を深めるようにした。施設内での虐待については、お互いが注意し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は精神保健福祉士で、精神科病院で相談業務に従事していた関係上、各種制度についてはある程度の知識を持っているが、他の介護従事者は学ぶ機会は少ない。現在のところ、活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明文を用い、十分な説明を行い、契約にあたっての同意を頂いている。改訂に関しては、変更時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談に関する体制を整備している。面会、外出時等に、家族の気持ちや、考えを伺うようにし、運営やケアに活かすようにしている。	入居者やご家族等にとって、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。その上で、面会時に出された意見等をしっかり把握し、全員で検討しながらケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会や関連法人のグループホームとの合同ミーティング、管理者が出席する管理会議などを通じ、職員の意見や提案を聞く機会を設け、例えば業務のシフト制や申し送りの見直しなどを行った。	職員が意見を出しやすいように、意見提出用の書類を作成・配布し、出された意見を運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や、各種学習会への参加等を考慮しながら、昇給や賞与の支給を行った。介護福祉士などの資格取得時には、資格手当を支給するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関する情報を受けて、法人内外の研修に参加出来るようにしている。法人内での教育年間プログラムに沿った研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び薩摩半島地区のグループホーム連絡協議会や、川辺町内のグループホーム交流会を通じ、運営上の気づきや、ケアの方法等の検討を行い、サービス向上の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時以前より、体験利用や相談を受け付け、ニーズの把握に努め、環境変化に伴う、動揺を少なくするための努力を家族や関係機関の協力も頂きながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時以前より、体験利用や相談を受け付け、ニーズの把握に努め、環境変化に伴う、動揺を少なくするための努力を家族や関係機関の協力も頂きながら行っている。また、家族の疲れにも配慮しながら、不安や要望なども伺い、家族の満足にも応えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時には、関係機関を含めたカンファレンスを行い、状況把握を行い、ケアプランを作成している。母体法人が精神科デイケア・訪問看護を実施しているため主治医の指示のもと利用しながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や畑仕事、縫い物など、昔取った杵柄と言えることを、一緒に行ったり、昔話をしたりしながら、それらをコミュニケーションの手段としたり、自信を持ってもらったり、役立っていると言う実感につながるような取り組みを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が、一番支えとしているのは家族という認識のもと、家族の健康にも留意しながら、一緒に過ごす中で、不安や困っていることに応え、ひいては、本人の健康や満足につながるよう、それを一緒に喜べるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との交流は、積極的に進め、利用者によっては、週に1~3回面会がある。外出や外泊なども、基本的に自由で、お盆や正月、また誕生日などを家族で過ごす方もいる。	入居者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、知人やご家族との交流、墓参り、自宅訪問、馴染みの美容室利用などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の時間を大切にしながらも、共有スペース等を活用し、お互いが交流できるようにしたり、買い物やデイケアなどの機会も有効に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、いつでも相談にのる旨を伝え、相談があった際は、応えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のかかわりの中で、おもいが表現できる環境づくりや、機会を持つようにしている。生活記録や、普段あまり見られない言動にも注意し、情報を共有している。表現が困難な方については、家族からの情報等を活用し、ニーズの把握に努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するために、生活歴や生育歴などのアセスメントを十分に行うとともに、日常生活においても常に観察・把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生育歴、家族構成、病歴などフェイスシートを用い聴取しており、全職員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、表情、言動、行動面を観察し、定期的なバイタルチェックを行いながら、必要時には、主治医に相談し、健康面を含めた全体把握に努めている。有する力は、生育歴や様子、また言動から把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望や、職員、関係者からの情報を元に、課題検討を行い、ケアプランを作成するようにしている。モニタリングは、毎月行い、見直しや変更を行っている。	入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、必要な関係者と話し合いが行われており、その人らしさを取り入れた介護計画が作成されている。見直しは、毎月行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用し、日々の記録や、特記事項などを記録し、職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行き慣れた理髪店に行ったり、受診や買い物、墓参りなど、家族と協力し、家族が出来ない時には職員が同行し臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の雑貨店、魚屋、肉屋等の商店や、役場、消防署等の公的機関も把握し、一緒に買い物に行ったり、いざというときは、協力を頂きながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	治療は、原則として、母体病院と協力医療機関で受けられるよう進めているが、眼科や、外科等専門的な治療が必要な場合、家族の意向を確認した上で、希望の医療機関にて治療を受けられるように支援している。	本人やご家族等の希望を大切にしながら、以前からのかかりつけ医とも連携を行っている。また、母体医療機関が認知症専門病院でもあるため、適切な医療を受けられる体制が十分に整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が1名勤務しており、情報交換を行いながら必要な援助を行っている。また、主治医や看護師等と相談しながら適切でタイムリーな受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、籍は残したまま、入院が出来る旨を説明し、入院後も、早期退院が出来るよう、ほぼ毎日、面会に行き、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明文に、終末期への対応についての説明文を明記し、説明を行っている。現在のところ終末期対応はないが、必要時には対応する予定である。	重度化した場合や終末期のあり方について、『入居利用のご案内』に”終末期の対応”として明示し他の重要事項とともに説明している。その後も必要に応じ、入居者本人やご家族等と話し合いを行い、職員を含めた関係者間で方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院での学習会や消防署職員の指導による救急蘇生法等の学習会を通じ、急変や事故発生時に備えている。また、緊急時マニュアルを整備し、有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、自動通報装置、消火器を設置し、災害時に備えている。また、定期的に、消防署合同の避難訓練を行っている。自動通報装置には近隣の住民も登録しており、応援がいただけるようになっている。	年2回の消防署との合同訓練及び単独での訓練に加えて、夜間の通報訓練も年1回実施している。消防署がすぐ近くにあり、自動通報装置により建物の2階に居住している同一法人の職員や近所の協力者にも連絡が届くため、迅速な対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌なことはしないようにし、言葉遣いには、特に注意している。職員同士で指摘し合い不適切な言葉にならないようにしている。	入居者に関する記録物等について、個人情報の管理は適切に行われている。また、入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、一人ひとりに応じた言葉掛けを行うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、自己表現が出来るように、待つ、聴くということを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聴き、入浴や食事、排泄、外出など出来る範囲で、本人のペースに沿って柔軟に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に、本人の意志に任せている。自ら選択出来ない、あるいは着脱出来ない場合には、本人に聞きながら、身だしなみを整える等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い調査を行い、献立については、なるべく入居者の希望を取り入れるようにし、献立の記録を取りながらバランスにも配慮している。調理は、現在職員が中心に行っているが、調理の一過程や後片付け等は、可能な範囲で協働で行っている	食事が楽しみなものとなるように、入居者が出来る範囲で、職員と一緒に買い物に出かけたり、準備や後片付けを手伝ってもらっている。また、献立に入居者の希望をできるだけ取り入れ、ホームで育てた野菜を食するなど、季節感にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立、食事・水分摂取量のチェックと記録を行いながら必要な量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは促し、出来ない方には直接支援している。歯科往診もあり、指導の下、口腔ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方には、その都度必要な排泄援助を行っている。入居者状況チェックシートを活用し、排泄状況を把握し、個別の排泄援助計画を立てて行っている。	入居者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を記録しており、排泄の自立に向けた適切な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取が十分になるようにすると共に、必要な方には、主治医とも相談しながら、排泄コントロールに対する支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日出来るようにして、入浴状況チェック表を用いながら、無理強いせず、希望に添った形で入浴援助している。時間帯は、出来るだけ、日中でお願している。足浴も行っている。	入居者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、毎日入浴できる体制となっている。毎日入りたいと希望される場合にも対応するなど、個々に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムは大切に、日中はなるべく、起きておけるよう、交流を促したり、個別に関わるようにしている。睡眠障害がある方については、主治医との連携の下、睡眠導入剤等を使用し、質の良い睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から渡される、薬の説明書を各入居者毎にファイルし、必要時には、活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や草取り、食事の準備、後片付け、買い物、洗濯など、その方の状況に応じ、可能な範囲で役割と達成感がもてるようにしている。音楽が好きな方は、部屋に音響機器を持ち込み楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、季節の行事、家族との外出、デイケア、病院受診などの支援を本人や家族の希望を聞きながら行っている。	近隣への外出や通院介助の他、季節毎にぶどう狩りやお花見、ピクニックなど遠出の外出も行っている。車いすが必要な入居者も個別に支援しながら、なるべく多くの方が出かけられるように取り組んでいる。また、希望に応じて自宅訪問や墓参りも支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、所持している方はいる。そのお金で椿油や、洋服、雑貨などを買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。電話は、希望時には職員が支援し、会話などされている。手紙でのやり取りはほとんどないが、はがきに、一文本人が書き添えるなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、ゆったりとした空間となるよう配慮し、季節感が感じられるような、演出をさりげなく感じられるようにしたり、行事の写真を掲示するなどし、回想やコミュニケーションの架け橋となるようにしている。	建物内の随所に、季節を感じられる掲示物などが飾られている。リビングにはソファが設置されるなど、入居者が思い思いに居心地よく過ごせるような共有空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	交流スペースは複数箇所準備し、気のあった利用者同士で過ごせるように、配慮している。一人で過ごしたいといった希望も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や慣れ親しんだものなど持ち込まれている。写真や遺影など持ち込まれている方もいらっしゃる。	入居者本人やご家族と相談しながら、写真や位牌、タンスなど、それぞれに馴染みのある品物が持ち込まれており、安心して居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フルフラット構造になっている。手すりの設置や自室、トイレなど場所の掲示をしたり、タンスから、希望の服を出せるようプレートに種類を書いたり、ベッドの位置を変えたりし、なるべく自分で出来ることは出来るように配慮している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 19	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会は設け、運営に活かす努力はしているが、まだ、不十分である。	外部評価時の、家族からのアンケートの結果が、現在の評価よりもアップする。	面会時等を活用し、本人の近況や、ケアプランの内容を伝えることに合わせ、家族の要望を伺うようにし、ケアや事業の運営に活かすようにする。またその記録を整備する。	12ヶ月
2	11	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映するよう努力はしているが、まだ、不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人ひとりが、自らも経営者という認識を持つ。</li> <li>ケアや事業所運営に際し、やりがいを感じる。</li> <li>企画力や提案力、実践力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人ひとりの目標設定と適時面談を行い進捗状況を確認する。</li> <li>毎朝のミーティング、部署会、日常の会話から、提案を取り入れ、実践する。</li> <li>言動に責任を持たせる。</li> </ul>	12ヶ月
3	48	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援はしているが、まだ、不十分である。	認知症を抱える人々の不自由さを理解し、出来ないことは求めず、出来るであろうと思われることは奪わないかわりが出る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかわりの振り返りをBS方等を活用し行う。</li> <li>業務と称して行っていることの見直し。</li> <li>人生物語や私の姿と気持ちシートの作成。</li> </ul>	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。